

# 「八」 革命と反動革命

露西亞革命は、單に吾々に無産階級獨裁の實例を示したばかりでなく、ブルジョア階級の抵抗の具體的な形をも示した。即ちそれは全體として勞働者革命の特質を明かにしたのである。エンゲルスはその著「アンテ・テューリンゲン」の中に、資本主義が軍國主義を發達させ、全國民を軍國主義化するの同時に、一方、おける階級的對立の結果、軍國主義を亡す要素をも發達させて行く徑路を述べた。此對立は、或時期に達するに資本主義の……を分裂させ、茲にブルジョア側に立つ白軍と、無産者側に立つ赤軍とが出来る。然るに所謂マルクス主義者は、此點を閉却して、エンゲルスが佛國に於ける階級戰を論じて、廣く市街のために一揆暴動は益々困難になる、といった言葉ばかりを引合に出す。所が露國革命は、市街は勿論……を證明した。露國革命は亦、資本主義的な、灰色の分子で新しい軍隊を作る……ブルジョアの反動革命家等の慣用手段である……をも明かにした。露西亞より一層十分に資本主義化して居り、有福な、資本家的な農民階級のある國々では、此反革命的ブルジョア階級の傾向は、直ちに農業資本家の支配する地方の……と、都會の……の衝突となつて現れよう。そこで革命と反動革命との衝突は、事實上の戰爭となる。斯うに無産者革命の發達は、帝國主義的戰爭を、革命・反革命との階級戰爭に變へてしまふ。獨逸がウクライナを攻撃し、英國や佛國などが露西亞を攻めたのは、此進化を反映してゐる。革命と反動革命との發達は、社會主義革命の戰術の問題を提起する。露西亞革命はこの問題がさう發展するを示した。露西亞革命は士官の缺乏に苦しみ、勞働者を工場管理者とするの同時に、軍隊の指揮者として教育しなければならなかつたが、是は單に露西亞一國の問題では無い、……を指示してゐる。ブルジョア階級は少數に過ぎず、隨つて純粹のブルジョア分子からばかり反動革命軍を組織することは出来ない。そこで無産階級の分子をも取入れなければならぬが、さういふ要素は革命側と關つてゐる中に、早晚ブルジョア分子を分断して、反對者側につれてしまふのである。

ブルジョア階級は單に權力で無産階級を支配したのみでなく、生産の管理者としての身分に依つても支配して居つた。そこで革命に對しては單に武力で抵抗するのみならず、ブルジョア階級及びブルジョアの智識分子のサボタージュに依つて抵抗した。一九一七年の十一月革命から一九一八年の三月まで、最も猛烈に行はれたこのサボタージュは、單に露西亞だけの問題でない。歐羅巴の無産者も亦、是を参考にすることが出来る。骨抜きのマルクス主義者等が、露西亞の無産者は今日まで、社會主義的に生産を組織することが出来ないといふ説りを浴びせる時、彼等は天に向つて唾を吐いてゐるようなものである。何處に於てもブルジョア階級及びブルジョアの智識分子は、無産階級の組織的事業を能ふ限り妨げるもので、そんなに進んだ國でも、無産階級が社會主義的建設の事業に必要な技術家、専門家を味方に引入れることは容易でない。組織の發達してゐる點で稱讚的になつてゐる獨逸でさへも、全生産事業を管理する能力のある勞働者は、極めて稀である。それ所が、技師として一工場の生産を監督し得る勞働者すら容易に得られないことは、獨逸の勞働運動の内部で働いた者が、誰でも知つてゐることである。總ての國の勞働階級は、何百遍となく失敗を繰返した後に、始めて管理經營の事業を會得するであらうし、何處に於てもブルジョア分子の援助なしには、それを仕送けることは出来まい。そこで彼等は、恰度露西亞の場合と同じく、ブルジョア分子を勞働者の下で働かせるために、嚴正な獨裁を執る必要に迫られるに相違ない。

露國の無産者に峻嚴な獨裁的手段を執らせた原因である食糧品の匱乏といふ事實は、何處の無産階級でも革命の際には脱れることの出来ない問題である。何處に於ても農民は保守的であるから、最初から社會主義革命に左袒するも本主義の發達した國では、農民と無産者との一致は一層困難なのである。革命は軍事的見地から見ても、都會軍と、地方の反革命的農民軍との闘争になつて行くが、社會的に見てもさういふ傾向がある。結局遅れた農民が都會の無産者に覺醒させられて、社會主義の社會は、資本主義の社會よりも人間らしい生活を自分等に與へるものだといふことを覺るまで、此衝突は避けられまい。